

こうかい ひこうかい べつ
公開・非公開の別

■ 公開 □ 部分公開
□ 非公開

第1回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 開催日時 令和2年2月7日(金) 午後3時30分から午後5時

2 開催場所 市役所 本館8階 第3委員会室

3 出席状況

委員 アデライデ レイス (ブラジル)

シム キュマン (韓国)

杉野 アドリアーナ (ブラジル)

鈴木 エバ (フィリピン)

妹尾 圭持 (知識経験者)

孫 玉傑 (中国)

丹野 清人 (学識経験者)

バンバン ハリアント (インドネシア)

ファム トウイ フォン (ベトナム)

レニ ブラエニ (インドネシア)

事務局 企画調整部 部長 内藤 伸二郎

国際課 課長 佐藤 宏明

国際課 課長補佐 松井 由和

国際課 影山 侑里奈

4 傍聴者 5人 (一般: 2人、記者: 3人)

5 議事内容 (1) 委員長・副委員長の選任
(2) 浜松市の多文化共生施策について
(3) 今後の審議のテーマについて

6 会議録作成者 国際課 影山 侑里奈

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 有 **無**

8 会議記録

1 開会・挨拶

《企画調整部長挨拶》

《委嘱書の交付》

《事務局職員紹介》

3 委員自己紹介

アデライデ委員：ブラジルから来日した。現在、保育園で働いている。

シム委員：3年前に韓国から来日した。3年前から外国人学習支援センターで日本語の勉強を始めて、今は外国人学習支援センターで働いている。

杉野委員：ポルトガル語教師をしている。また、外国人の子どもたちの日本語とポルトガル語の学習支援プロジェクトにも取り組んでいる。

鈴木委員：フィリピン出身で、浜松市に来て19年になる。浜松市内の小中学校でフィリピン人の学習支援を行っている。また、NPO法人フィリピンナガイサでも活動している。

妹尾委員：磐田市で弁護士をしている。弁護士になって8年程になり、磐田市に来て5年半くらいになる。

孫委員：中国の大連出身。以前は貿易の仕事をしていて、出産を機に専業主婦となった。現在は保育士の資格取得のための勉強をしている。

丹野委員：首都大学東京で教員として働いている。25年前に、浜松市の企業100社、請負業者150社に対してインタビュー調査を行った。審議会を通じて、当時と現在の違いを見ることができればと思っている。

バンバン委員：20年前に来日した。HAMKAという浜松市のムスリムの会で活動している。普段は車関係の仕事をしている。

ファム委員：現在、税理士・行政書士の事務所で働いている。また、静岡県内の学校でベトナム人の支援を行っている。

レニ委員：18年前にインドネシアから来日。普段はパートやインドネシア語教師をしている。また、浜松インドネシア友好協会でも活動している。

4 議題

(1) 委員長・副委員長の選任

《事務局から審議会の趣旨説明後、委員の互選により委員長及び副委員長を選出》

委員長 丹野委員
副委員長 杉野委員

(2) 浜松市の多文化共生施策について

《事務局から説明》

(3) 今後の審議のテーマについて

(事務局からの説明に対する意見・感想、今後の審議のテーマについて)

レニ委員：近年SDGsへの注目が集まっている。SDGsをテーマに盛り込むのは良いと思う。

孫委員：子どもの育成支援など、社会福祉に力を入れる必要がある。浜松市は外国人の子どもが不就学をなくしているが、虐待防止対策などについても取り組んでいけると良いと思う。

妹尾委員：特定技能や技能実習などの在留資格で来日した外国人におけるトラブルはどのようなものがあるか、またその解決策を話し合っていると良いと思う。

鈴木委員：外国ルーツを持つ子どもたちのロールモデルは非常に大切だと思う。子どもたちにとって、将来を見据える良いきっかけになる。

シム委員：日本人、外国人に関わらず、女性の出産費用のサポートがあることを知らせると良いと思う。

アデライデ委員：外国人の子どもたちに対するドメスティック・バイオレンス対策などについて話し合えると良いと思う。

杉野委員：市が取り組んでいる外国人のメンタルヘルス相談や、多言語での相談窓口は良い取組だと思う。ICTを活用しているということだが、英語・ポルトガル語以外の言語への対応もこれから大事になってくる。外国人の高齢化やSDGs、子どもたちへの教育などについて話し合えて、日本人にとっても、外国人にとっても住みやすいまちにしていければ良いと思う。

丹野委員：「外国人の子どもが不就学ゼロ作戦事業」の次の取組があると良いと思った。中学を卒業した後も、高校へ進学、その後正社員として仕事に就くところまでサポートできると良いと思う。勉強をすれば仕事に繋がりと安心してこれから生活できるというところを見

せることが大切。

他県で、日系人でも生活保護を受給すると定住ビザが1年になってしまうというケースがある。1年のビザになってしまった人が、高校卒業後、仕事に就いていないとビザの更新がなくなってしまうそう。正社員ではない外国人は日本に在留しづらい状況がある中、これを乗り越えるために、正社員になるための支援の仕組みがあると良いのではないかと。

また、別の県で、外国人の子どもが振り込め詐欺に関わってしまう事例がある。外国人は、詐欺の関与度に関わらず、通例として1回の犯行で執行猶予なしで刑務所に行くことになる。そして、刑務所を出た後国外退去となる。たとえわずかでも犯罪に関与すると、このように取り返しのつかない事態になってしまうことを啓発すべきである。

孫委員：発達障害が疑われる子どもについて、国によってどの程度からグレーゾーンに入るのかの解釈が異なり、難しい。もっとカウンセリング体制やサポートを整えば高校に進学する子どもが増えるのではないかと。

杉野委員：「外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業」の対象は中学生までだが、これからは高校進学まで考えていくべきだと思ふ。母国で生まれて来日する子どもは、学校に通わない子どもが多いと感じる。その結果、勉強をせず貧困に繋がってしまう。

丹野委員：浜松市は永住者の在留資格を持つ外国人が多いが、それは良い傾向だと思ふ。外国人が安心して住んでいるから永住者となっていると捉えることもできる。

鈴木委員：高校に進学するとどうなるかのイメージを持ってもらうことが大切だと思ふ。勉強を頑張ると良いことがあると認識してもらったり、日本語を勉強できる場所を増やしたりすると良いと思ふ。

バンバン委員：学校の中に外国人と日本人と一緒に勉強できるインターナショナルクラスのような場所があると良い。

レニ委員：日本語はもちろん大事だが、母国語も大事だと思ふ。日本に来日したばかりの子どもは、日本語と母国語を同じ比率で勉強しないと精神的に辛くなってしまう。

また、子どもだけでなく、親に対しても、教育に関心を持たせることが必要であると思ふ。浜松市を国際化の街にしていけると良いと思ふ。日本人も外国人も様々な言語や文化を体験できる環境があると良い。

丹野委員：日本語学習ばかりを強調してしまうとアシミレーション（同化）になってしまう。アシミレーションではなく、マルチカルチュラル（多文化）にすることが大切。

《事務局からの連絡事項》